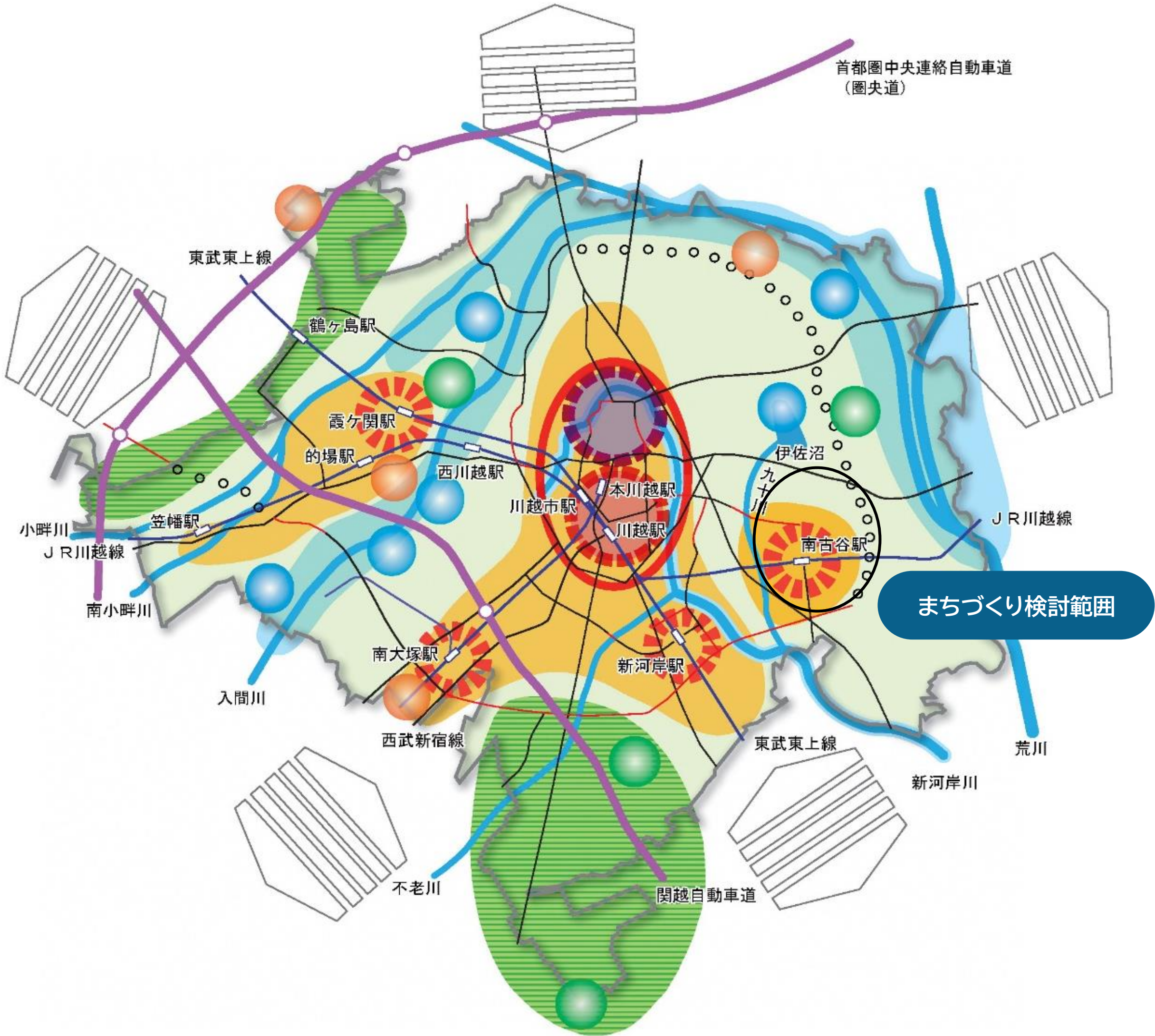


南古谷駅周辺の位置付け

令和7年2月 まちづくりオープンハウス資料
川越市 都市整備課

市のまちづくりは「都市計画マスタープラン」、「都市再生整備計画」と言ったまちづくりの計画に基づいて進められます。このため、今回進めようとしている南古谷駅周辺地区の活性化のまちづくりに当たっても、「位置づけ」を確認しておく必要があります。

第4次川越市総合計画(後期基本計画) 将来都市構造図



凡 例	
	高速道路・インターチェンジ
	鉄道・駅
	主要幹線道路
	(赤線は整備中または未整備の路線)
	主要幹線構想道路
	他都市との連携
	河川・沼

凡 例	
	都心核
	都市的活動核
	歴史・水・緑核
	地域核
	地域活動ゾーン*

凡 例	
	産業拠点

凡 例	
	水・緑拠点
	緑拠点
	水・緑ゾーン
	緑ゾーン

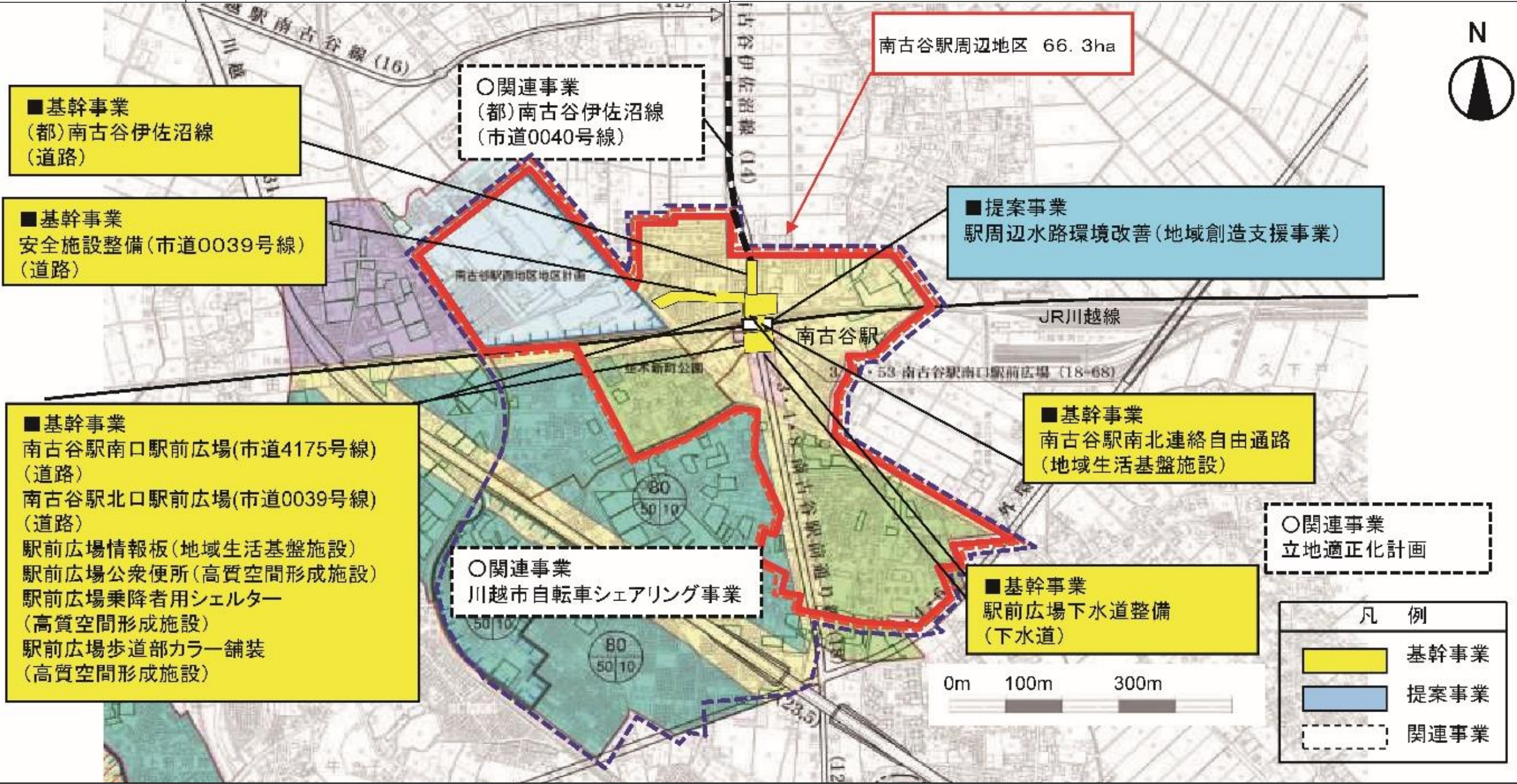
* 地域活動ゾーン：快適な都市活動を図るため、鉄道駅を中心とした活動的な市街地を位置付けたもの。

南古谷駅周辺地区 都市再生整備計画の概要

「地域核にふさわしい新たな都市機能の充実により南古谷駅周辺の魅力を高め、地域の活性化及び賑わいを創出するため、南古谷駅北口開設を含む駅周辺都市基盤整備に向けた用地取得や、まちづくり活動推進事業を実施する」

南古谷駅周辺地区(埼玉県川越市)整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

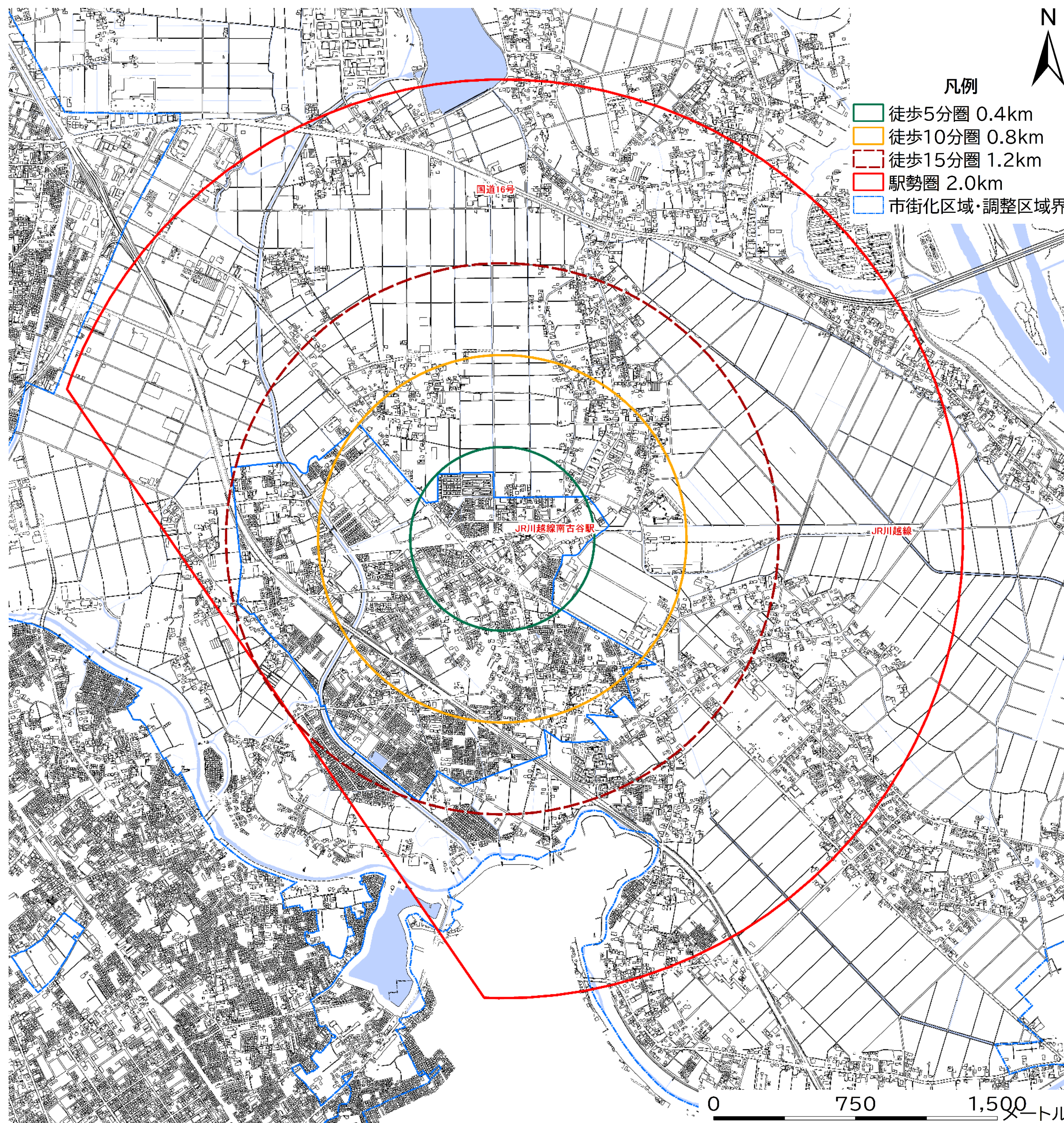
目標	大目標:南古谷駅周辺を地域核にふさわしい新たな都市機能の充実により魅力を高め、回遊性、利便性、及び安全性の向上を図り、地域の活性化及び賑わいを創出する。 目標1:南古谷駅を中心とした都市機能の充実、及び地域特性を生かしたコンパクトな市街地の形成。 目標2:都市計画決定されている都市計画道路及び駅前広場などの整備により、公共交通の安全性・利便性の向上を図り、交通結節点としての機能を強化。 目標3:南古谷駅周辺南北市街地の一体化による、地域の活性化、及び賑わいの創出。			
代表的な指標	交通の利便性・安全性の満足度（％）	18.5	（R3年度）→37.0	（R10年度）
	南北連絡自由通路を利用して、南北を往来する人の数（駅利用でない） （人/12時間）	0	（R3年度）→142	（R10年度）
	地区内における人口密度（人/ha）	95.8	（R4年度）→95.8	（R10年度）



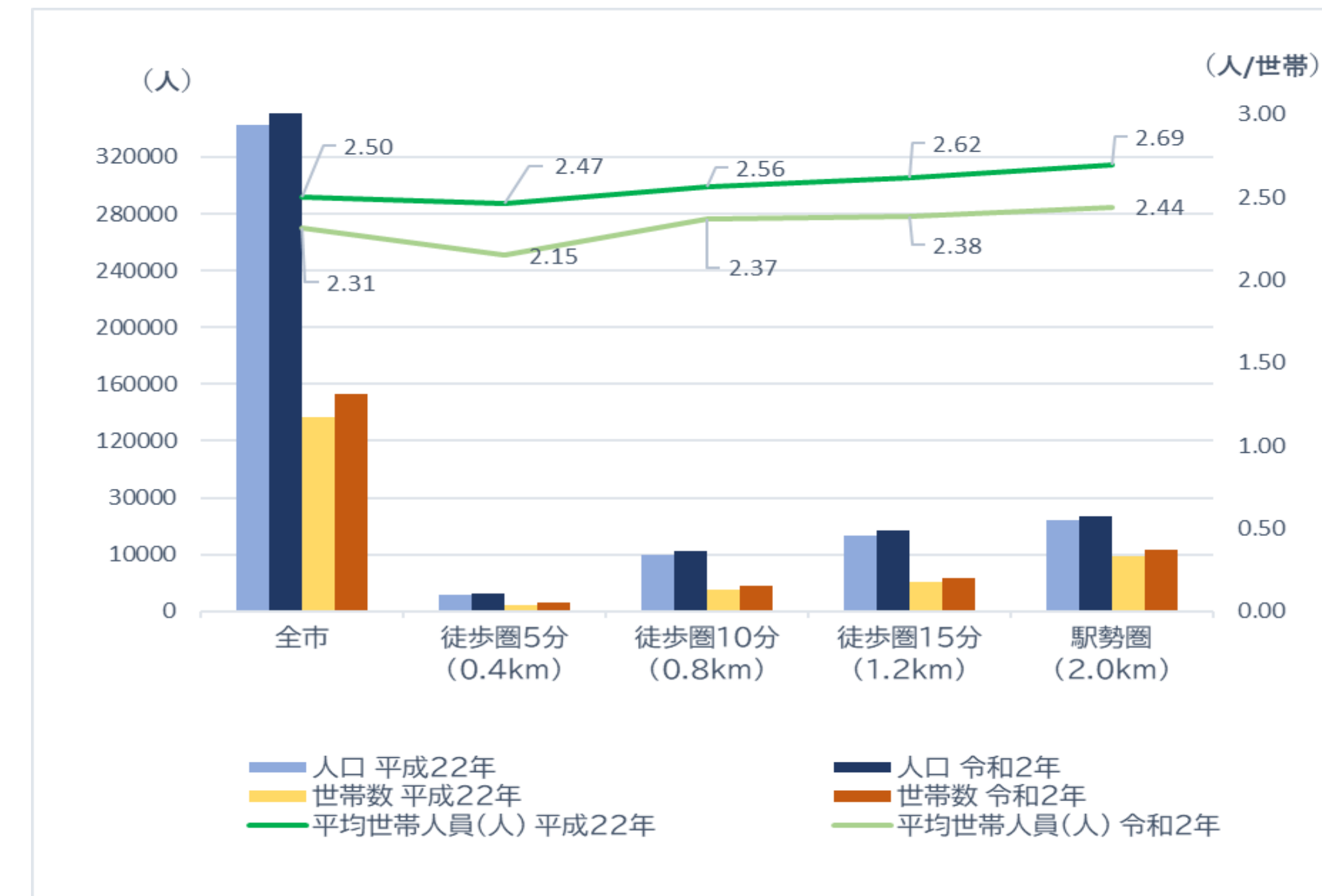
南古谷駅周辺の現状(人口、世帯数)

令和7年2月 まちづくりオープンハウス資料
川越市 都市整備課

南古谷駅の駅勢圏 圏域図



これまでの圏域別人口、世帯数、世帯当たり人員の推移図



(考察)

○令和2年時点の人口は、徒歩圏5分で3,131人、徒歩圏10分で10,724人、徒歩圏15分で18,890人、駅勢圏で26,692人となっている。平成22年と比較して全圏域で増加しており、うち徒歩圏10分の圏域で8.4%と一番高い増加率を示している。

○世帯数についても、平成22年と比較して全圏域で増加しており、うち徒歩圏5分の圏域で22.8%と一番高い増加率を示している。

○世帯あたりの人員数は、平成22年と比較して全圏域で減少している。

将来の人口推計表

人口 (人)	令和2年	令和22年 (推計値)	増減率 (%)
徒歩圏5分(0.4km)	3,131	3,840	22.6%
徒歩圏10分(0.8km)	10,724	9,160	-14.6%
徒歩圏15分(1.2km)	18,890	19,348	2.4%
駅勢圏(2.0km)	26,692	28,877	8.2%

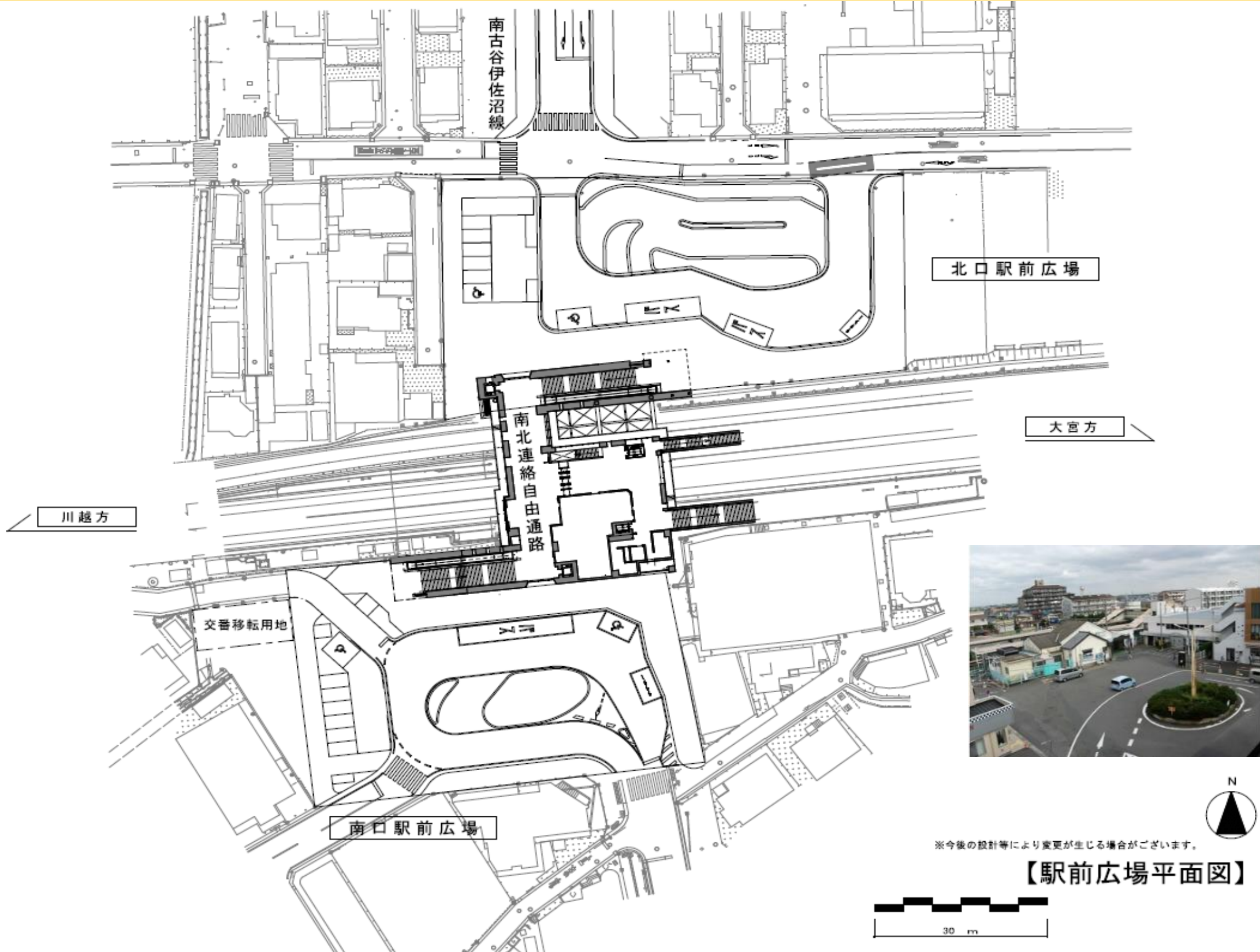
(考察)

○将来人口は、令和22年(2040年)に徒歩圏5分で3,840人、徒歩圏10分で9,160人、徒歩圏15分で19,348人、駅勢圏で28,877人と推計されている。令和2年(2020年)からの20年間で、徒歩圏5分の圏域で約23%増加すると予測されている一方で、徒歩圏10分の圏域で約15%減少すると予測されているが、徒歩圏15分で2%強、駅勢圏全体では8%強の増加と推計されている。

南古谷駅周辺の動向(大規模な事業計画)

令和7年2月 まちづくりオープンハウス資料
川越市 都市整備課

①南古谷駅舎改良事業、南北駅前広場整備事業



令和6年8月



令和6年8月



令和6年8月



令和6年8月



令和6年8月



令和6年8月



令和6年8月



令和6年8月

内観イメージパース(自由通路)

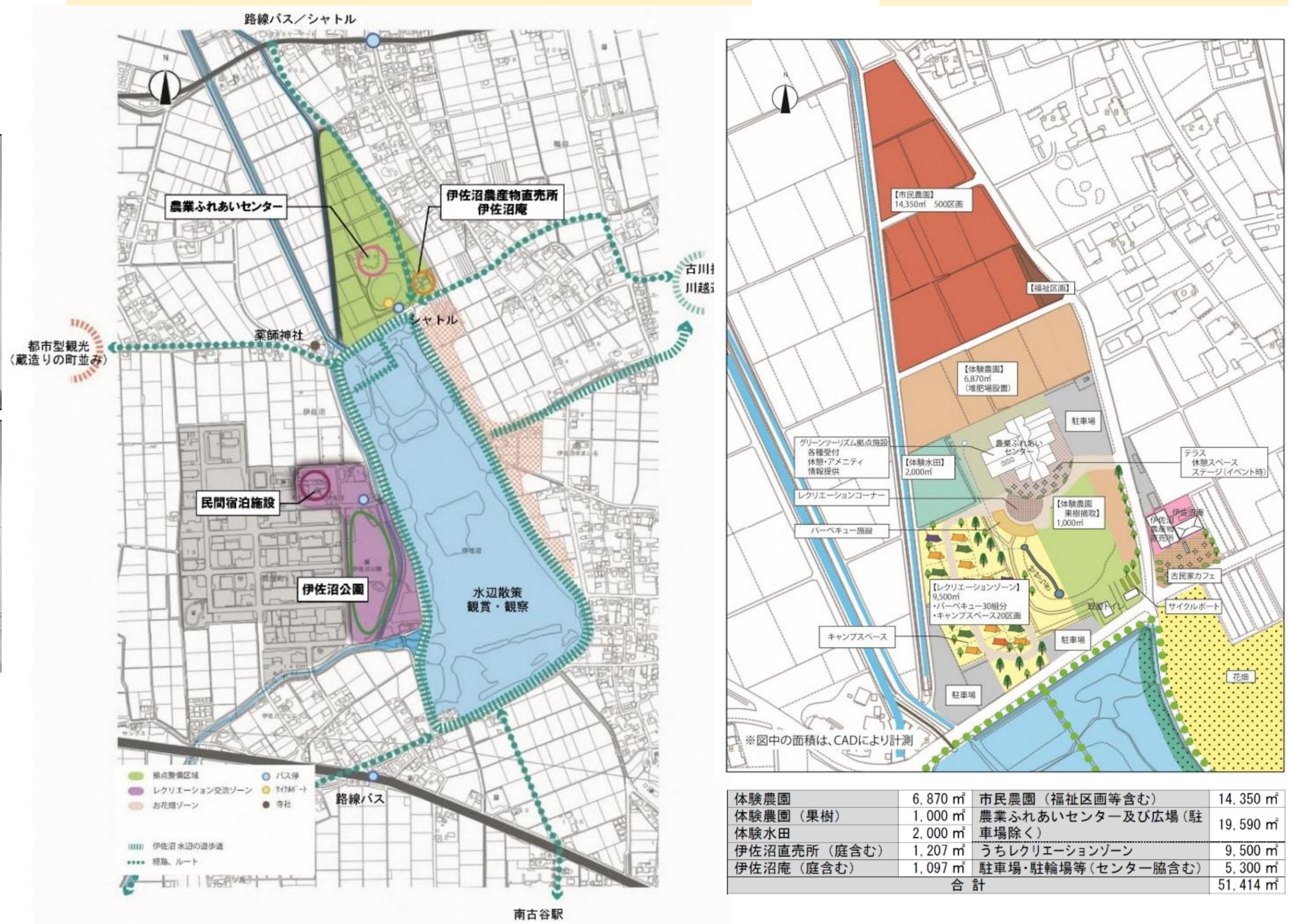
②蔵 in ガルテン川越

「蔵 in ガルテン川越」とは

「蔵 in ガルテン川越」は、人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、平成28年1月に策定された、「川越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けのある8つのプロジェクトの一つで、農業ふれあいセンターを中心に、伊佐沼や田園など周辺の自然的景観や農業とのふれあいをコンセプトとしたグリーンツーリズムを推進するものです。

グリーンツーリズムの拠点施設整備と伊佐沼周辺施設等との連携

「蔵 in ガルテン川越」における配置案

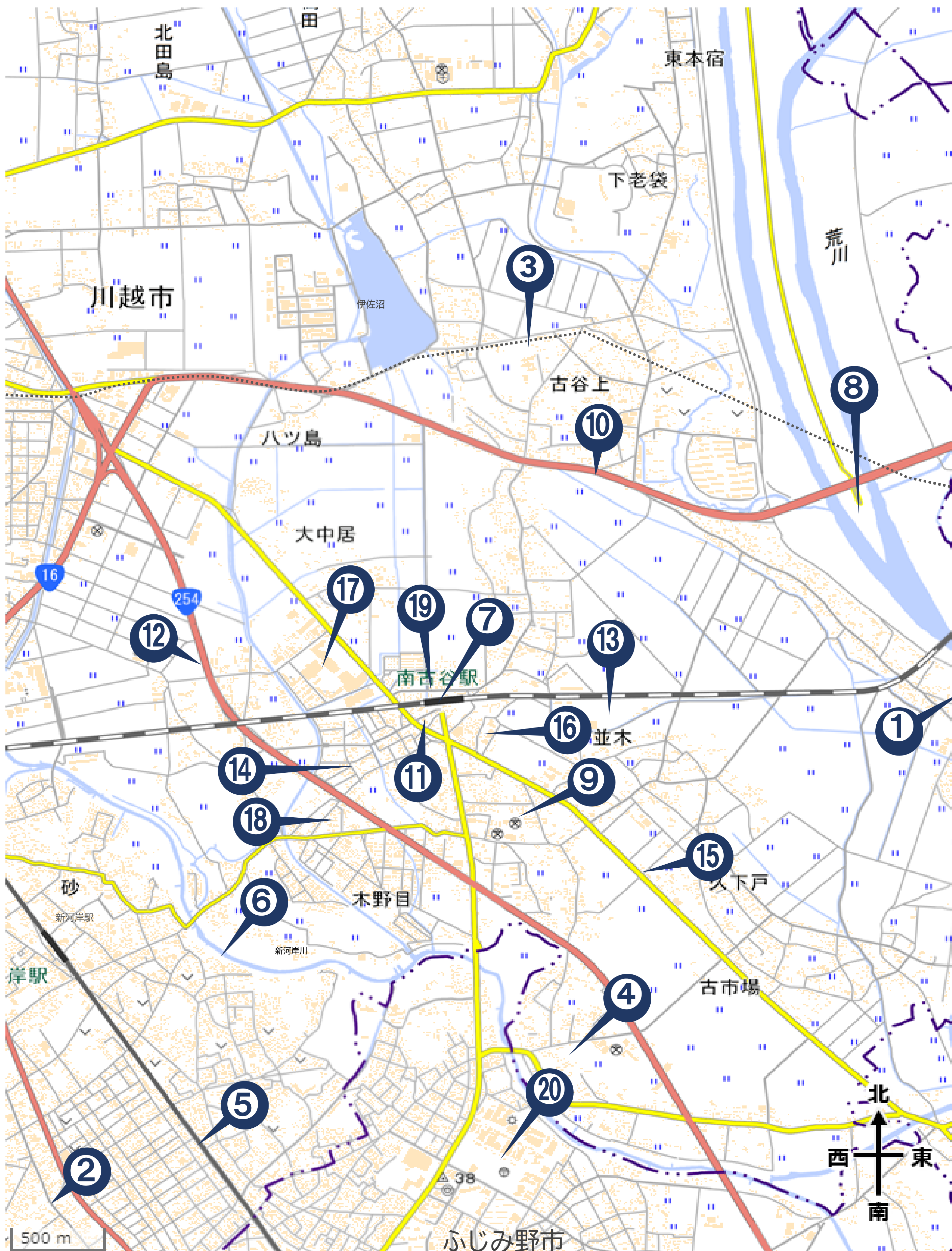


※『蔵 in ガルテン川越 グリーンツーリズム拠点整備計画概要版』より抜粋

南古谷駅周辺の変遷(明治～令和)

令和7年2月 まちづくりオープンハウス資料
川越市 都市整備課

令和7年2月 まちづくりオープンハウス資料
川越市 都市整備課



明治

大正

昭和

平成

令和

- 西暦1400年代 江戸城築城の頃 旧川越街道整備②
1889年(明治22年) 今泉村、南田島村、久下戸村、並木村、牛子村、木野目村、古市場村、澁井村が合併し南古谷村発足
1906年(明治39年) 川越電気鉄道(川越・大宮間)電車運行開始③
1909年(明治42年) 古市場に橋本銀行開業(昭和に入り村役場として使用)④
1910年(明治43年) 荒川氾濫。入間郡で32名の死者(埼玉県内死傷者401名)
1914年(大正3年) 東上線開通(池袋・川越間)⑤
1922年(大正11年) 川越電気鉄道が西武鉄道大宮線に③
1931年(昭和6年) 新河岸川が通船停止令により舟運終了⑥
1933年(昭和8年) 廃業した旧橋本銀行の洋館を役場として使用④
1940年(昭和15年) 国鉄川越線が開通し、南古谷駅が開業⑦
1940年(昭和15年) 西武鉄道大宮線廃止③
1954年(昭和29年) 荒川(入間川合流点)改修完了⑧
1955年(昭和30年) 川越市に編入(南古谷村の人口:5,368人→南古谷地区25,126人(2024年(令和6年)))
1965年(昭和40年) 東邦音楽大学開設⑨
1974年(昭和49年) 国道16号4車線化整備⑩
1977年(昭和52年) 並木地区土地区画整理事業完了⑪
1981年(昭和56年) 国道254号富士見川越バイパス供用開始⑫
1985年(昭和60年) JR川越線全線電化⑦
1985年(昭和60年) JR川越車両センター(旧川越電車区)設置⑬
1985年(昭和60年) 並木西田地区土地区画整理事業完了⑭
1986年(昭和61年) 川越北消防署南古谷分署設置(川越地区消防組合HPより)⑮
1995年(平成7年) 川越税務署が並木に移転⑯
2003年(平成15年) ウニクス南古谷オープン⑰
2005年(平成17年) 藤木地区土地区画整理事業完了⑱
2009年(平成21年) 国道254号線富士見川越バイパス無料開放⑫
2018年(平成30年) 都計道南古谷伊佐沼線及び南古谷駅南口駅前広場事業認可⑲
2020年(令和2年) イオンタウンふじみ野オープン⑳
2023年(令和5年) 南古谷駅自由通路及び橋上駅舎基本設計公表㉑



川越電気鉄道 久保町車庫(注1)



1910年(明治43年)水害東明寺橋付近での救助活動(注1)



大正時代に帆を張って航行する高瀬舟(新河岸川)(注1)



1981年(昭和56年)国道254号富士見川越バイパス開通記念式典(注2)

*写真(注1):「第2回企画展」写真展(1990川越市立博物館)より引用

*写真(注2):川越市提供